

耐震診断結果

平成19年度に実施した小・中学校施設の耐震診断結果をお知らせします。

【耐震診断の実施状況】

区分	棟数	棟数内訳	
		新耐震基準 (昭和56年~)	旧耐震基準 (~昭和55年)
小学校 (7校)	24	10	14
中学校 (3校)	16	11	5
合計	40	21	19

◎ 昭和56年以前に旧耐震基準で建設された建物19棟について耐震診断を実施。

[内訳]

《小学校》 7校のうち 誠道小学校を除く 6校で14棟
 《中学校》 3校のうち 第三中学校を除く 2校で5棟

【耐震診断の評価の方法】

安全性評価基準		緊急度判定基準	
構造耐力上 主要な部分が 大規模な地震 の振動および 衝撃に対して 倒壊し、また は崩落する 危険性 が	高い	A (改築・耐震補強)	① ※1 ISが0.3未満または、 ※2 Qが0.5未満
	ある	B (耐震補強)	②~⑥ AおよびC以外
	低い	C (耐震上問題なし)	⑦ ※1 ISが0.7以上または、 ※2 Qが1.0以上

※1 構造耐震指標 (is 値)

建築物の耐震性能(地震に対する安全性)を数値化したもの。値が大きいほど耐震性能が高いことを表します。

※2 保有水平耐力に係る指標 (Q 値)

建物が地震による水平方向の力に対して対応する強さ。

◎ 評価は安全性と緊急度について実施。

《安全性評価》

A・B・Cの3段階
(A・Bは要耐震化)

《緊急度判定》

①~⑦の7段階
(①~⑥は要耐震化)

◎ 安全性および緊急度の

判定は、各棟の最も不利な値を用いて判定。

【耐震診断の判定結果】

安全性評価	緊急度判定	施設名
A	①	該当なし
B	②~⑥	Cの棟を除く、小・中学校の管理・教室棟、教室棟等 (16棟)
C	⑦	渡小学校・中浜小学校の体育館、第二中学校の技術棟 (3棟)

◎ 診断の結果、「改築や耐震補強が必要(A)」

に該当するものではありませんでしたが、「耐震補強が必要(B)」に該当するものは16棟ありました。

これを受け、子ども達の安全と安心のため、下記のとおり整備計画(案)をまとめました。

境港市立 小・中学校施設



改築計画のある第二中学校舎(教室棟)

整備計画(案)の概要

- 耐震化の必要な 小学校6校(誠道小学校を除く)と第一中学校については、耐震補強を行います。
- 施設の老朽化に伴い、市内小・中学校のすべてについて大規模改造を行います。
- 老朽化の著しい 第二中学校 については、改築を行います。
- 計画は、中学校の冷暖房設置も含め、平成21年度から事業に着手し、5年間をかけて整備していきます。
- 計画には、給食センターの新設(平成24~26年度を予定)も組み入れており、事業費の総額として約40億円を見込んでいます。

耐震診断の結果を踏まえた、市内小・中学校の整備計画(案)がまとまりました。

整備計画(案)

第二中学校改築の考え方

第二中学校は、昭和32年から36年にかけて建設された、市内で最も古い教室棟2棟を保有しており、このたびの耐震診断でも耐震化の緊急度が一番高いと判定されました。

このため、耐震化のための補強工事を検討しましたが、建物の構造が複雑なため(北側は柱のない壁式構造である)壁の基礎工事等を必要とすることから、多大な費用がかかり、工期も長くなること、また、老朽化が顕著であることから、改築の方針としました。